豊中みどりの交流会
こんな活動やっています！

みなさんのご参加
待っています！

花苗プロジェクト

活動基地であるＳＥＥＤで、花壇を増やす開墾作業を進めてきました。新たに加わった３つのかわいい円形花壇。３年前にさし芽をして、大きく育ったアジサイのある西側花壇。春にはこのアジサイの移植を予定しています。跡地をどんな花壇にするか、歩道から眺めた景色を楽しいものにしたいと、限られたメンバーで頑張っていますが、大変です。新しい仲間の参加をお待ちしています！大歓迎！！

地域緑 Book プロジェクト

私たちのプロジェクトでは、みどりの活動をされている団体に体験参加して、地域緑 Book を作成しています。「私たちの活動を取材してほしい」「自分たちの活動を多くの方々に紹介したい」とお考えの団体の皆さん、お知らせください。

みどりの学習プロジェクト

みどりについて広く学ぶ視点から、ヒント集の作成、見学会などを行っています。皆様にみどりについて学んでいただけるよう、更に取り組んでいきます。たくさんのご参加お待ちしております。

みどりのカーテンプロジェクト

みどりのカーテンづくりは多くの学校に参加いただきありがとうございました。種まきから指導した生徒は 500 人を超えました。

今年度は５校 490 人の児童からゴーヤ、ヘチマ、ヒョウタンなどを育てた感想文がたくさん寄せられました。「ゴーヤは嫌いでしたが自分で育てたゴーヤはおいしく好きになりました」「みどりのカーテンの後ろに立つと涼しかったです」「ゴーヤジャムを作りおいしかったです」。また授業でみどりのカーテンの意義について学習した感想として「室内の温度を下げる」「光合成 CO_2 吸収で温暖化防止」「栄養満点」など、たくさんの声が聴けました。

これからも学校支援としてみどりのカーテンづくり活動を進めたいと思います。

かたつむりのひとりごと

私は、豊中みどりの交流会に個人参加し、みどりのカーテンプロジェクトでグループの皆さんとゴーヤの種まきから参加しました。育てた苗を学校や施設に配付したり指導に行きました。私自身もゴーヤ栽培を実体験したことで、皆様に指導できたかなと思いました。

ゴーヤの料理方法などを質問され、レシピ通りの説明ができず、これからもっと勉強しなければと思いました。ふれあい広場ＳＥＥＤで育てているゴーヤから種の取り方や苗の作り方などをメンバーさんに教えてもらいながら作業するのが楽しみです。

【編集後記】

今年度のみどりのフォーラムは、例年に比べ開催日が１か月ほど遅れました。功罪は多々ありますが、何と言ってもアンケートの回収率が格段に上がったというのが、特徴的でした。これは来年度のフォーラム活動資料に限らず、交流会の今後の活動にも大いに参考になると思います。アンケートに回答いただいた方を含め関係者の皆様には深く感謝いたします。

『みどりのつどい』のご案内

■日時：平成２５年３月３日（日）
１０：００～１２：００

■場所：花とみどりの相談所（豊島公園内）

■内容：話題提供
意見交換会　ほか

発行　豊中みどりの交流会　運営委員会　www.city.toyonaka.osaka.jp/top/kankyou/shiminkankyokatsudo/midori_kouryukai
連絡先：(事務局) 豊中市公園みどり推進課　〒561-8501　豊中市中桜塚３丁目１番１号　℡06-6858-2355　FAX06-6842-2802

豊中みどりだよりは、みんなで、どんどん、りょっか（緑化）しよう！という意味を込めて、豊中市でみどり活動を進められている方に向けて発信するニュースです。

TGA
Toyonaka Green Action

特集　みどりのフォーラム２０１２

『みどりのフォーラム 2012』を開催しました！

■「そだてよう みどりと人の“わ”」をテーマに11月25日、豊中駅前のすてっぷで開催しました。
おかげさまで、112人の入場者があり、盛況のうちに終えることができました。

▼基調講演：久留飛　克明さん（箕面公園昆虫館　館長）「植物のまねをする昆虫たち」
▼事例発表：豊中みどりの交流会、豊中市立蛍池小学校、豊中市環境部公園みどり推進課
▼パネル展示：市内小学校（31校：中豊島・新田・北条・少路・桜井谷・新田南・野田・桜井谷東・寺内・小曽根・豊島西・西丘
庄内南・豊島・刀根山・東豊中・桜塚・蛍池・大池・東丘・北丘・庄内・豊島北・豊南・東泉丘・野畑・北緑丘・庄内西
緑地・箕輪・克明）、原田保育所、庄内保育所、本町保育所、野田保育所、ひかり保育園、聖マリア幼稚園
豊中文化幼稚園、せんなり幼稚園、第八中学校、豊中自動車教習所、パナホーム㈱、豊中緑化リーダー会
NPO法人とよなか市民環境会議アジェンダ21、リサイクル工房竹炭塾、豊島北ビオトープクラブ、親和自治会
上野連合花壇同好会、豊中駅前まちづくり推進協議会、親栄自治会、豊中親和会みらい、豊中親和会第2みらい
豊中愛和会あすなろ、豊中きらら福祉会きらら作業所、幸楽の里、ヒメボタル保護者会、くらしかん
東豊中地域福祉活動支援センター、豊中市環境部環境政策室、リサイクル交流センター
環境センター北部事業所、豊中市消防本部、豊中人権まちづくりセンター、豊中みどりの交流会　（順不同）
▼体験ｺｰﾅｰ：ペットボトル工作、竹細工、カード工作、ペーパークラフト
▼プレゼント：花苗（パンジー・ビオラ・ナデシコ）

特集　：　みどりのフォーラム２０１２

基調講演　『植物のまねをする昆虫たち』（概要）

◆昆虫とむし

「昆虫」と「むし」は同じようだが、違う。例えば、「でんでんむし」と呼ばれるカタツムリは、「むし」と呼ばれるが昆虫ではない。箕面公園では多くみられるが、住宅地では少なくなってきた。また、子どもにとって、一番身近なむしだと思われるダンゴムシも昆虫ではない。ダンゴムシの足の数は１４本で、体は７節で成り立っている。足の数を数えるのではなく、足は１節に２本ずつあるという体のしくみを理解すれば、おのずとわかってくる。

一方、昆虫の仲間であるショウリョウバッタは、雑草が茂る所で体色を葉の色に似せて、鳥やトカゲから身を守る。アオマツムシは、よく桜の木にとまり、「リーリーリーリー」と鳴く。元々、日本にはマツムシが生息しており、童謡にもあるように「チンチロリン」と透き通った声で鳴く。この両者は似ているが、アオマツムシは外来種である。また、アブラゼミやニイニイゼミは体の模様を木肌に似せて、鳥から身を守っている。現在はあまりみられなくなったニイニイゼミは、絶滅危惧種といわれるトキ、コウノトリなどのように守られない。カメムシは洗濯物などに付いて家に入ることがあり、触ったり刺激を与えると強烈な臭いを出す。刺したり咬んだりしないカメムシにとって、この臭いが唯一の攻撃手段である。

◆昆虫のはね

昆虫の条件は、「６本足であること」と「はねをもっていること」である。小さな生き物の中で、はねをもっているのは昆虫だけだが、どのようにしてできたのか。例えば、スズメバチ、カゲロウ、ナツアカネ（赤トンボの一種）には、４枚のはねがある。はねの成り立ちに関する一つの仮説として、胸の背中側の板が伸びたことが考えられる。変温動物である昆虫は、気温が低いと体温が下がって活動できない。そのため、はねに日光を浴びて体温を上げようとする。

テントウムシやカブトムシなどの甲虫の仲間は、飛ぶ時だけ、硬い鞘の中にたたんだはねを出して飛ぶ進化をした。このはねのたたみ方は特徴的で、そこから東京の三浦教授によって考案された折り方を「ミウラ折り」と呼び、ハイキングの際の地図や衛星のパネルのたたみ方にも応用されている。

◆昆虫の目

アゲハチョウの幼虫は白と黒の体色をしていて、鳥の糞に似せることで鳥に食べられるのを防いでいると考えられている。さなぎになる前に緑色の体になり、大きな目のように見える黒い模様ができる。この模様で天敵を驚かせて身を守る。

さて、昆虫の目はどのようにしてできたのか。昆虫と同じ先祖をもつミミズは、皮膚の表面にある視細胞で光を感じ取っている。そして、この視細胞が集まってできたものが昆虫の目である。一方、人間の目は脳からできている。脳の表面の皮膚が薄くなって透明になったものが目であり、昆虫の目とは大きく異なる。

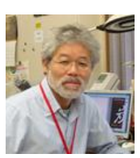
◆昆虫と人間

人間の脳は、１０００億個の細胞からできており、昆虫の脳は１００万個の細胞からできている。これほど差があるにも関わらず、昆虫には強い生命力がある。例えば、カマキリのオスは交尾の際にメスに頭を食べられるが、交尾を続けることができる。これは、脳が頭・胸・腹に分かれているためで、私たち人間には到底真似できない。

昆虫と私たち人間の命は同じものである。漠然としかわからない「命」について、考えるきっかけを与えてくれるのは、周りの環境や自然、身近な生き物たちの生きる姿である。昆虫館の役割とは、まず、子ども達を昆虫嫌いにさせないことだと思う。そして、もう一つの役割は、実際に生き物を見てもらうことで、命を感じ取り、相手を認める大切さを伝えていくことだと思っている。

●久留飛（くるび）　克明（かつあき）さん（箕面公園昆虫館　館長）

昭和48年より大阪府保健所に勤務、環境衛生監視員として府民の安心・安全に関する業務に携わる。平成13年より大阪府営箕面公園昆虫館館長。府下の小学校で昆虫教室を開催するなど、府民協働を積極的に進める。また、アートを取り入れた展示や箕面公園の豊かな自然を感じてもらうために、キリギリスの声を聞かせるイベントなどネットワーク事業を始める。「探偵ナイトスクープ」をはじめ各種マスコミに登場、名物館長として紹介されている。



『みどりのカーテンづくりを通して』　　蛍池小学校

４年の理科では「季節と生き物」の単元があり、季節ごとの植物の成長について興味関心をもって追求する活動を行います。そして、生物を愛護する態度を育み、動物の活動や植物の成長と環境とのかかわりについて学びます。その中のひとつの活動として、春から「みんなでみどりのカーテンを作ろう」と、種まきから取り組みました。

クラスの班ごとに世話をする苗を決め、毎日の水やり当番や、ゴーヤへの思いを書き込んだプレートを作りました。自分たちで愛情込めて世話をしてきたゴーヤに巻きひげが出てきたとき、葉が茂ってきたとき、花が咲いたとき、小さな実をつけたとき、それぞれの場面で子どもたちは感動し、顔を輝かせて「先生、ちょっと見て」「すごいやろ」と報告をしに来ていました。一方、なかなか葉が茂らない、花が少ない、実が小さい・・・などいろいろな心配なこともでてきて、「なんでかなぁ、毎日水やってるのになぁ」と悩みながらも一生懸命に世話を続ける姿もありました。

水遣りだけでなく、肥料やり、草抜き、摘心など世話の仕方も豊中みどりの交流会の方々に教えていただき、夏休み前には見事な『みどりのカーテン』が育ちました。

はじめは「ゴーヤあんまり好きちゃうねん」「家に持って帰ってもなぁ・・みんな食べるかなぁ」とつぶやいていた子どもたちも、自分で育てたゴーヤはうれしそうに持って帰って家の人たちと収穫を喜びあえたようです。その食卓ではきっと「毎日水やりしてんで」「めっちゃ大きいのもあってんで」などと会話が弾んだことでしょう。

夏のあいだ、見たり味わったり涼んだりして私たちを楽しませてくれたゴーヤのカーテン。２学期に入り、オレンジに熟したゴーヤの中から種が出てきてびっくりの子どもたち。「これって・・春に植えた種やん」「ゴーヤから種がいっぱい出てきたで」と、自分たちの育ててきたゴーヤの「次の世代」が育っていたことに感動していました。植物の命も季節を通して連続してつながっていることを体験できたのです。

１０月、この活動のしめくくりとしてゴーヤ染めをしました。エコバックを絞り染めにし、今も教室で使用しています。

この活動を通して、植物を世話する大変さも楽しさも感動も味わった子どもたち。きっとこれからもこの体験を糧として“みどりと人のわ”を広げていってくれることと思います。

「みどりのカーテンプロジェクトのみなさんへ」　～ 子どもたちの感想から ～

◆ゴーヤの植え方やどのくらい水をあげたらいいかとかいろいろ教えてくださってありがとうございます。育てたゴーヤを食べてみて、売っているゴーヤより自分たちで育てたゴーヤのほうがおいしかったです。

◆ゴーヤの植え方を丁寧に教えてくれてありがとうございました。毎日水やりをしていたら、ものすごく大きくなりました。みどりのカーテンのおかげで理科室が涼しくなりました。ゴーヤの実もとてもおいしかったです。種から育てたから土に入れるときはちゃんと育つかなーと少し不安な気持ちもありましたが、教えてもらったとおりにやったら、立派に育ちました。

◆ゴーヤの植え方や育て方を教えてくれてありがとうございます。毎日、朝と夕方に水やりをしていると、そのうち緑色のゴーヤや黄色のゴーヤにもなりました。黄色のゴーヤの中には赤い実がありました。食べてみると！！すごくおいしくて、赤い実の中には最初に植えた種が入っていて、それを春にまた植えることができると聞いてとてもうれしかったです。

◆この前はゴーヤの植え方を教えてくださってありがとうございました。育てたゴーヤは食べたり、ゴーヤの葉で染物をしたりしました。一番最初のときは、「本当にできるかな？」と不安だったけど、水をやっていたら大きくなってとてもうれしかったです。みんなで協力したからできたと思います。みどりのカーテンができて涼しかったです。いい風がきて気持ちよかったです。白ゴーヤもとりました。「白ゴーヤ」と聞いたときは「白ゴーヤ？」と不思議に思いました。本当に白のゴーヤでした。白ゴーヤは少なかったけど、取れたのでうれしかったです。

◆夏休みが終わるころに学校に来ると、何個かオレンジ色になっていたのですごくびっくりしました。オレンジのゴーヤをさわろうとするとすごくやわらかくてすぐにつぶれそうでした。オレンジになったゴーヤの中に入っている赤い種を食べてみると、すごくおいしくて、柿のちょっと熟した味に似ていました。おいしかったので、もう一個たべたらはずれでした。次に友達と一緒にゴーヤをとりに行って、赤い種を食べたらまたまたおいしかったです。

◆私は、ゴーヤでカーテンを作ることが初めてだったので、あの時わくわくしていました。種を植えて、班の人で朝チームと昼チームにわかれて一生けんめいに水やりをしました。